



町方伊報
発行所 町方伊報社
〒796-03 伊方町伊方局8-0211
編集長 伊藤 昭彦
印刷所 伊方印刷所
〒796-03 伊方町伊方局8-0211

今月の紙面
二・三画... 新町議会議員さん
十八人に聞きました
お母さんの似顔絵
四画... 民話と伝説
故郷の思い出
五画... 自醸酒品評会
だじょうぶですか裏山
六画...

「福田丸」二期目へ船出

山口助役・西田収入役決まる

一期四年間「豊かで活力ある町づくり」に努めた福田直吉氏が、このたび無投票で再選。昭和三十年の町政施行以来八代目の伊方町長に就任しました。

福田町長は四月三十日、職員が拍手で迎えるなかを初登壇。さつそく、町民会館二階視聴室で職員を前にあいさつを行い、「二期目の町政を担当することに、責任の重大さを痛感、諸施策の推進に、対し公正にして誤りのないよう職員が一丸となって協力してほしい」と、公務員として

の自覚を促し、協力を呼びかけました。また、改選後初の町議会が五月十四日から五日間の日程で開催されました。任期満了に伴う助役・収入役・監査委員の選任に同意。

この結果、助役には山口和哉氏(総務課長)、須賀、収入役に西田恵明氏(建設課長)



山口和哉助役

このうな、光栄と感謝。助役という重責を今さらながら痛感して、また、先輩諸氏の築かれた実績をけがさないよう一生懸命勉強したいと思ひます。



西田恵明収入役

ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

このたび、二期目の町政を担当させていただきますことになり心から感謝申し上げます。ともに、責任の重大さを痛感して、

また、四国で唯一の原子力発電所立地町として、原子力の正しい理解と安全性の確保につとめます。さらに三号機受け入れにあたってお約束いたしました諸条件の整備と、りわけ発電所立地町としての財政的優位性の確保と、特色ある財政運営につとめたいと考えてます。

町民の皆様への期待にこたえられよう、歴代町長並びに先輩諸氏の築きあげられた基盤をもとに、町議会と手を取りあつて職務の遂行に全力を傾注したいと存じます。

以上二期目の町政を担当するにあたり、町づくりの基本的な考え方一端を述べさせていただきます。



第8代伊方町長に就任、抱負を語る福田町長。

また公僕として一日も早く職務に精通できるよう努力したいと存じます。決意を新たにがんばります。ご指導のほどお願い申し上げます。に、ただ、しげあき略歴



改選後、初の臨時町議会で就任あいさつをする高野議長

高野氏が16代議長に 副議長には梶田氏を選出

- 委員 浜本 浩
委員 菊池 伝治
委員 長 吉川 治吉
委員 辻 忠義
委員 重岡 雅樹
委員 黒田 殷栄
委員 田中 康司
産業建設委員会
委員長 安部 安
副委員長 竹場 淳
委員 梶田 忠義
委員 井上 鶴敏
委員 小泉 久
委員 高月初彦
原子力対策特別委員会
委員 辻 忠義
委員 重岡 雅樹
委員 井上 鶴敏
委員 竹場 淳
委員 小泉 久
委員 安部 安
委員 丸山 栄一
議会運営委員会
委員長 小泉 久
副委員長 竹内 藤雄
委員 菊池 伝治
委員 安部 安
八幡浜・大洲地区広域市町村圏組合議員
委員 竹内 藤雄

特色ある財政運営を

町長 福田 直吉
えた「定住できる町」をつくる(教育文化の魅力を備える)教育文化を備える青少年をひきつける。希望あふれる町をつくる。この三つの基本方針を掲げ、調和のとれた活力ある町づくりを推進する所存であります。

また、四国で唯一の原子力発電所立地町として、原子力の正しい理解と安全性の確保につとめます。さらに三号機受け入れにあたってお約束いたしました諸条件の整備と、りわけ発電所立地町としての財政的優位性の確保と、特色ある財政運営につとめたいと考えてます。

しかしながら、四年間で成し得なかつた諸問題もたくさんあります。こうした諸問題の解決に最善の努力を払いたいと決意を新たにしているところでございます。

わたしは引き続き、(一)産業の振興をはかり、町民経済を豊かにして「活力ある町」をつくる(二)農漁村的な自然環境と都市的な生活環境を兼ね備

えさせていただきます。

また、しげあき略歴



西田恵明収入役

突然のごとで、浅学非才をかえりみず就任いたしました。公愛預かる立場として、

また公僕として一日も早く職務に精通できるよう努力したいと存じます。決意を新たにがんばります。ご指導のほどお願い申し上げます。

に、ただ、しげあき略歴

また、しげあき略歴

また、しげあき略歴



即日町民会館大ホールで開票

4月24日に行われました町議会議員選挙で、18人の新しい議員さんが決まりました。

新人五人が仲間入り

激戦の町議会議員選挙

町議会議員選挙は定員十八人に対し十九人が立候補、激しい選挙戦が繰り広げられました。

身近な選挙で激戦を裏付けるかのように、当日の投票率は九六・四三%。前回(昭和五十四年)にくらべ、二・二二%下回ったものの高い投票率でした。

投票率の高かった投票区を見てみますと、トップが第十三投票区(鳥津)、二位が第三投票区(大浜・中之浜)、三位が第十投票区(二見)の順です。反対に最も低い投票区は第五投票区(湊浦・小中浦)の九三・三二%でした。

当選された議員さんの内訳

は、現職が十三人、新人が五人でした。

今回の選挙で当選された議員さんそれぞれに町づくりに対する抱負や心がまえを、字数を指定してお伺いしました。用字用語以外は原文そのまま、議席順に紹介しま

○氏名(年齢)
○職業・現住所・数字は
○当選回数
○順序は議席順です。
敬称略



梶田 忠義(五十三歳)
農 業・湊 浦・③

◇町づくりの基本姿勢
清潔で信頼のある政治を目指したい。活力のある故郷づくり充実のために農林漁業基盤を積極的に振興したい。学

校教育をはじめ町民全体の教育文化、福祉の調和のとれた町づくりの推進をはかりたい。生活環境並びに保健活動を進め長寿の町・希望あふれる明るい町づくりに努力したい。

◇今、町に一番必要なもの(二)とは
町民会館近くに駐車場
出稼ぎをしない地域産業の充実。
◇好きな言葉
小さな一日一善でも一生では沢山の善行になる。
◇尊敬する人物
豊臣秀吉



辻 忠義(五十七歳)
農 業・豊之浦・⑤

◇町づくりの基本姿勢
原電立地町として豊かな財源を有効に活かし、公共施設は他町に例をみないほど充実している。しかし、将来を展望したと

き、この公共施設の維持管理費が予算を圧迫する原因となる。そのためには今の財源を少なくと五十億以上財調基金として積立しておく必要がある。また、恒久財源としての発電税を創設するよう国に強く働きかけ、将来とも伊方町発展の財

源確保に努めねばならない。
◇今、町に一番必要なもの(二)とは
特に一番の順位はないが、町民からの陳情を処理し町民の要望に応えること。
◇好きな言葉
特になし
◇尊敬する人物
特になし



高野 遠(六十歳)
会社役員・二見・⑤

◇町づくりの基本姿勢
地域住民の要望を適切に把握して、これを議会に反映させたい。
また、これまで四期十六年

間の議員経験を土台とし、自然環境と調和した豊かで住みよい町づくりのために全力を注ぎたい。
◇今、町に一番必要なもの(二)とは
基幹産業の振興と生活環境の整備

◇好きな言葉
初心忘るべからず
◇尊敬する人物
特になし

町議会議員さん 18人に聞きました



竹内 藤雄(五十九歳)
会社役員・豊之浦・②

◇町づくりの基本姿勢
一期四年間の経験を生かし町民の皆さんに信頼される議会運営に参画したい。
また、初心を忘れず農漁業

の基盤整備を中心とした住みよい町づくりに最善の努力をしたい。
◇今、町に一番必要なもの(二)とは
南予用水事業、新国道の早期完成。
◇好きな言葉

◇尊敬する人物
西郷隆盛
子孫のために美田を買わず



松本 竜明(四十七歳)
採石業・仁田之浜・②

◇町づくりの基本姿勢
町民の声を議会に反映させ豊かで住みよい町づくりに努力したい。
特に町民生活の安定施策

と、社会福祉の向上に努める。
◇今、町に一番必要なもの(二)とは
道路や港湾整備
◇好きな言葉
特になし
◇尊敬する人物

特になし



福田 弘(五十二歳)
農 業・川永田・③

◇町づくりの基本姿勢
(一) 地方自治の本旨に基づいて議会に課せられた任務を遂行したい。
(二) 伊方町百年の計の中で電

源立地町という特殊性を活かし、活力ある町・定住する町・誇りに誇りたい。
(三) 行政に日陰のないよう公正を常に念頭におき、信頼される議会活動をする。
(四) 町民の理解と協力の得られるよう対話と協調につと

める。
◇今、町に一番必要なもの(二)とは
社会教育の充実
◇好きな言葉
百尺竿頭進一步
◇尊敬する人物
特になし



井上 鶴敏(六十四歳)
農 業・中 浦・③

◇町づくりの基本姿勢
議会は執行機関が独断専行しないよう、これをチェックする団体意志決定機関であるから形式的な審議機関となら

ないようにつとめたい。(もちろん反対のための反対であってはならない)
そのためには、町民の要求を基本とした清潔な行政を推進する。
◇今、町に一番必要なもの(二)とは

常時働ける工場の誘致
◇好きな言葉
なし
◇尊敬する人物
祖父



重岡 雅樹(四十七歳)
漁 業・田之浦・③

◇町づくりの基本姿勢
まず、伊方町の発展に尽くしたい。そのために、町民の声を議会に反映させるよう努力する。

また、本町がかかえる原子力発電所・過疎・人口の老齡化現象・伸び悩む基幹産業など諸問題の解決に微力を注ぎたい。
◇今、町に一番必要なもの(二)とは
町民総合グラウンド

◇好きな言葉
少年よ大志をいだけ
◇尊敬する人物
クラーク博士



菊池 伝治(四十九歳)
農 業・畑・②

◇町づくりの基本姿勢
町づくりには、四国電力の原子力発電所が運転されており、その安全であることが、町の運命を握っていると思うため、

住民の要望をじゅうぶんに聞き、その実現に努力をしてゆきたい。
また、特に最近、青少年の非行が問題になりつつあるため、認識し、行政の上に反映させたい。

◇今、町に一番必要なもの(二)

と(一)は
学校施設の充実
◇好きな言葉
努力・忍耐
◇尊敬する人物
吉田 茂



黒田 殷栄(五十三歳)
農 業・大 浜・②

◇町づくりの基本姿勢
町民の意見を聞き、真の代弁者として議会に反映させるよう努力したい。

環境の整備 社会福祉の向上、住みよい町づくりに全力投球で望みたい。

◇今、町に一番必要なもの(二)

町民経済を豊かにして活力ある町にすること
◇好きな言葉

努力と前進
◇尊敬する人物
徳川家康



竹場 淳(三十五歳)
会社役員・田之浦・②

◇町づくりの基本姿勢
みんなが、住みやすい・うるおいある伊方町にするために努力したいと思ふ。

一人一人が何を求め、何を望んでいるかを常に町民との対話を通して見極め、どんな小さな意見にも耳を傾け、誠意を持って対処したい。

◇今、町に一番必要なもの(二)

各戸に下水道施設を早く完

備すること。
◇好きな言葉
初心に帰れ
◇尊敬する人物
福沢諭吉



小泉 久(四十九歳)
団体役員・川永田・②

◇町づくりの基本姿勢
町民の真の声を町政に反映させ、町民主体の町づくりに努めたい。そのためには一人でも多くの町民とひびきを交えて

て将来の町づくりについて話し合いたい。
また、主権在民の憲法の本旨に基づき、議会においては是々非々で筋を通し、課せられた任務の遂行に努めたい。

◇今、町に一番必要なもの(二)

と(一)は
生活環境の整備、町民が希望する運動公園の設立
◇好きな言葉
決断と実行
◇尊敬する人物
母



安部 安(五十歳)
電子工業・河内・②

◇町づくりの基本姿勢
町民の皆さんとのパイプ役となり、真の代弁者として町民の声を議会に反映、それが実現に努力したい。そして町

民主体の行政推進に取り組みたい。
その施策として、弱者を中心とした福祉の向上。住みよい町づくりの一環とした環境整備。生産性向上に連らなる基盤整備事業を更に充実。青少年を含む教育施設の充実な

とを重点に推進したい。
◇今、町に一番必要なもの(二)

(一)は
地場産業の育成
◇好きな言葉
生きがい
◇尊敬する人物
松下幸之助

この気持ちで 頑張ります



丸山 栄一(四十一歳)
商 業・湊 浦・①

◇町づくりの基本姿勢
町民のパイプ役となり、皆さんの心と声を議会に反映させる。町民サイドの行政推進に取り組み、特に農業・商

工業後継者の人たちの声をじゅうぶん聞き入れ、住みたくなる町づくりに取り組みたい。
そのために、若者が町内で働ける職場づくりなどを行政の立場で検討してみよう。

◇今、町に一番必要なもの(二)

と(一)は
町民総合グラウンド
◇好きな言葉
「土」人(土)を愛せよ
◇尊敬する人物
市川房枝



吉川 治吉(五十二歳)
農 業・川永田・①

◇町づくりの基本姿勢
心ふれあう豊かな町づくりを目標に町民の生活福祉の向上に努めたい。

(一) 本町の基幹産業である果樹畜産商工漁業の振興に全力を傾注したい。
(二) 町民の老齢化に伴ない今後の老人対策に取り組みたい。

◇今、町に一番必要なもの(二)

町民会館開設に伴ない駐車

場の整備拡充の実施
◇好きな言葉
信義
◇尊敬する人物
西郷隆盛



田中 康司(三十五歳)
会社役員・仁田之浜・①

◇町づくりの基本姿勢
伊方町のよりいっそうの発展と、二十一世紀に向けて躍動的な活力のあるすばらしい郷土を築くため、皆様の手足

となって町民の声を代弁し、清潔で住みやすい町づくり。
(一) 積極的な福祉行政の推進
(二) 心豊かな人間性を育成する教育と文化の振興
などを基本理念のもとに、明るい町づくりに全力投球をい

たします。
◇今、町に一番必要なもの(二)

(一)は
原子力発電所の安全
◇好きな言葉
誠実
◇尊敬する人物
特になし



浜本 浩(五十四歳)
農 業・大 浜・①

◇町づくりの基本姿勢
町民の手足となり、真の代弁者として皆さんの声を議会に反映させるよう努力したい。そのために、足腰の強い農漁

業の育成と若年農業の後継ぎを連れて引き受けられる環境づくり、農道などの基盤整備と活力ある家庭づくり・故郷づくりに取り組むこと。また、教育の振興とたくましい青少年の育成、福祉対策など町民主体の行政推進に取り組みたい。

と(一)は
◇今、町に一番必要なもの(二)

(一)は
町民総合グラウンドと役場か農協付近に大駐車場を一日も早く実現したい。
◇好きな言葉
初心忘るべからず
◇尊敬する人物
徳川家康



高月初彦(三十六歳)
農 業・川永田・①

◇町づくりの基本姿勢
町の基幹産業である農業にまず目を向けた。行政と農協とがいっそう連携を密にし、伸び悩んでいる農業の振興に

努力したい。
また、原子力発電所立地町として物中心の片寄った豊かさから、失われつつある協同精神・相互扶助精神・隣人愛精神などを醸成し心豊かな教育文化の高揚に努力したい。

◇今、町に一番必要なもの(二)

と(一)は
町民の和づくり、人づくりのための指導者(教育者)の養成
◇好きな言葉
一人の百歩より百人の一步
◇尊敬する人物
マラソンの瀬古選手



渡辺恵美子さん 友美ちゃん (河内=5歳)



森美栄子さん 正樹くん (河内=5歳)



丸山昭子さん しのぶちゃん (湊浦=6歳)



村戸曜子さん 良平くん (湊浦=5歳)



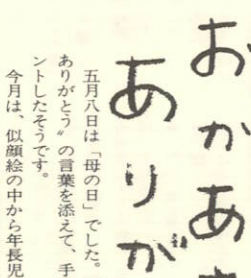
品川真理子さん 善次郎くん (湊浦=6歳)



吉岡ヨシ子さん 義美くん (川水田=5歳)



朝井登奈さん 隆二くん (川水田=5歳)



丸山昭子さん しのぶちゃん (湊浦=6歳)



村戸曜子さん 良平くん (湊浦=5歳)



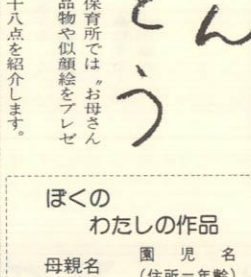
品川真理子さん 善次郎くん (湊浦=6歳)



城岡フキ子さん 彰くん (奥=5歳)



井関恵子さん 理恵ちゃん (伊方越=6歳)



丸山昭子さん しのぶちゃん (湊浦=6歳)



水口菊美さん 紀美ちゃん (豊之浦=6歳)



岡崎マリ子さん 昌弘くん (豊之浦=6歳)



宮本アサ子さん ゆかりちゃん (鳥津=6歳)



西村鈴恵さん 卓師くん (加周=6歳)



村戸曜子さん 良平くん (湊浦=5歳)



山上百合子さん 智子ちゃん (畑=5歳)



井関恵子さん 理恵ちゃん (伊方越=6歳)

おつかあさん
ありがとう

五月八日は「母の日」でした。町内の保育所では「お母さんありがとう」の言葉を添えて、手作りの品物や似顔絵をプレゼントしたそうです。
今月は、似顔絵の中から年長児の作品十八点を紹介します。

ほくのわたしの作品

母親名 園児名 (住所=年齢)



鶏をきらう氏子

九町

今でも毎年、氏子の人らで得能森議、城主講というがして神社にお参りしなはるがせ。
得能主膳は、織田信長、豊臣秀吉の時代で(水禄・元龜・天正年間)のおよそ二十年の間、九町浦長崎城主で「大成郡録」によると、大開検地で二百四十一石五斗四升七合。寛文検地では、三百五十七石七斗三升一合の地主でもあったがじやう話よ。

民話と伝説

原文/伊方町誌
補作/岡村豊
挿絵/宇都宮利久(前伊方小教頭)

今から四百年ぐらい昔のことよ。戦国時代のころじゃが、伊子の国守和郡九町浦の長崎に得能主膳通明という領主が城を構えていたぞうなわい。
時は天正十二年(一五八四年)じゃったぞうな、土佐(今の高知県)から、攻めてきた長曾我部元親の軍勢が、九町浦の東方にあたる八幡浜の萩森城を攻め落とすと、
その勢いで長崎城へも軍勢が押し寄せて来たがじやいわい。
得能主膳という人は、伊子の国では隠然たる勢力を誇る名門河野氏の一族で、得能通明より出たという名のある豪將じやったがと。
主膳は、うまく城兵を指揮して防戦に努め、なかなか戦いは決着がつかなんだらしいわい。
ある日のこと、長曾我部軍から使いの者が来て、「明朝、勝負を決しよう」と申し入れて来たがと。そこで、主膳もこれを受けて、その晩は将兵一同で酒宴をはり床に就いたがじやいわい。
一方、長曾我部軍は、一計を案じ、真夜中に鶏の止り木を竹に取り替えて、節を抜いて足元がぬくもると鳴く習性には中にお湯を入れたがと、鶏は足元がぬくもると鳴く習性があるけん、真夜中がに「コケッコ」と鳴いたがじやいわい。
これを合図に長曾我部軍が長崎城に猛攻撃をはじめたので、不意をつかれた得能勢はたちまち苦戦。主膳主膳十三人は城の北方に広がる湿地帯に逃げたがじやが、敵はななばでも追撃をしてくるので、ついに、沖の城と呼ばれる丘で自死したという話よ。
のちに、沖の城の北側の得能森に主膳の首塚を二つ建てたがと。
この得能神社には、大きな位牌があつて「超了円禪定門」延宝四年一月と書いてあらう。
それから後は、得能神社の氏子の家では、主膳の最期を教訓にして鶏を飼うのを禁じたがと。
その氏子(得能森組)は主膳の一族でかたまり、十三戸あつてこれ以上増えることはないといわれているがよ。
今でも毎年、氏子の人らで得能森議、城主講というがして神社にお参りしなはるがせ。

故郷の思い出

筆名 福田直吉(伊方町)

いつも広報を送っていただき、毎号楽しみにしております。

思えば磯の香りに送られた伊方後にしたのはもう二十年前にも前になりまじょうか。

今年もまた、若人が集立つ時期がやってきました。二十年前に比べると、発展はすばらしく、帰郷するたびにびっくりさせられます。反面、古いものがなくなるのを見ることも、とてもさびしい気がしますが、でも時代の波には勝てませんですね。

東京して二年後には夢が破れ、現実の厳しさをいややといふほど思い知らされました。そんなとき、思い出すのは、もつとふるさとのことばかりです。そうす。駄目なときほど心のふるさとを持つていふことが、どんなに力強いか身にしみて感じました。

懐かしい人々の顔・言葉、今ごろ何をしているのであらうかと想像したり、その昔、バレーボールを追ってグラウンドを駆けめぐり、とうきびを食べながら泳いだり、川水田の南浦の山から夜道をとぼとぼと家路につき、重い「負



「ぼたもち」うまいだろうなあ...

杉田 操(川崎市宮前区菅生1357-1小中浦出身)



杉田さんの出身地小中浦。石積みみの海岸がコンクリートに。

い子」を背負い段々畑を歩いたり、様々なことが脳裏をかすめます。

苦しいこと、つらいこともたくさんありました。でも、それらの苦しさの生活があったればこそ、辛抱強い性格やくじけない性格が備わったのではないかと、今では両親に頭が下がります。

そして現在の幸福に感謝しながら、いつも遠いふるさとを思っています。

それにしても、伊方の「あわもち」「きびもち」「たなきもち」「ぼたもち」はうまいだろうな。

父は、徳野正志さん(埼玉在住、石屋敷出身)を紹

介する予定です。

先月まで原稿を募集し、だご徳野さんから原稿をいただきました。厚くお礼申し上げます。

田中吉幸さん

第三十三回自釀酒品評会で優等一位、きき酒コンクールでも一位に輝いた田中吉幸さん(中浦)六十二歳)にスポットを当ててみました。

両方とも一位に輝きおめでとございます。

酒の品評会、きき酒の両方一位に輝いた。めつたにないことだから光栄の二語、周囲の人も大変喜んでくれ肩の荷が下りた。

自釀酒品評会1位めつたにない光栄

きき酒コンクール

よい酒の条件とは、香り、味が調和、口に含んだときなめらかでふくらみのある酒がよい酒の条件とされた。審査委員長的好评に、これに一番近かったと評していたのだ。一杯飲んで、もう一杯飲みたくなるような酒が理想と思う。自信はありましたか。四十九年に一度優等一位になったことがあり、経験などから言いたい。その年の酒でいえば自分では判断できず、入賞うんぬんではなく、今年自分なりによい酒ができたと思っていた。

酒づくりの経験年数は、高等小学校を出てからすぐ行き始めたので、もう四十六年ほどになる。杜氏になってからは三十年ほど。

今と昔では酒屋も変わりましたか。

そりや、くらべようもないほど変わった。一つは機械化などで楽になったこと、二つには働く時間が短くなったこと。昔は朝早くから夜中まで働いていた。



表彰を受ける優等に選ばれた杜氏さん

西宇和郡杜氏組合(西平寿衛組合長)主催による第三十三回自釀酒品評会が開かれ、田中吉幸さんの「初鷹」が優等一位に輝きました。

四月三日から四日間、伊方公民館で開かれた今年の自釀酒品評会、伊方杜氏を中心とした郡内の杜氏さんが冬期に酒づくりに出掛け、蔵一番で、きよい原酒を持ち帰って毎年その技を競っているのです。

今年も三十四万所の酒造場から百二十六万の出品があり、▲口にふくんで順位をつけるきき酒コンクール



酒づくり46年の田中さん

田中さんの「初鷹」が一位に

第三十三回自釀酒品評会

審査には高松国税局の原田哲夫鑑定官室長ら六人があたりました。

審査の結果、うまいお酒の三条件(味・コク・香り)ともいふに、わずかの差で十五点が優等に選ばれました。上位入賞の酒名と杜氏は次のとおりです。

優等一位 初鷹 田中 吉幸(中浦)

優等二位 梅美人 西平 寿衛(川水田)

優等三位 日々の力 小笠原(一夫中浦)

優等四位 鯉の勢(青山 五郎)

優等五位 友白髪(井上 道孝)

三芳菊(井上治太郎) 日々の力 (小笠原一夫)

相生大村(昭男)

京ひな(梶谷幸三郎)

富士白菊(高橋哲夫)

初鷹(田中 吉幸)

梅美人(西平 寿衛)

雲井橋(根来 辰雄)

玉の井根(根来 昌則)

千登勢(浜田 孝司)

男山前田(晴源)

優等六位 千鳥(山口 俊晴)

優等七位 稲穂(矢野 順三)

また、品評会の二日目に恒例のきき酒コンクールも行われ、次のかたが入賞。一位には表彰状、優勝旗及びカップなどが贈られました。

一位 田中 吉幸(中浦)

二位 根来 辰雄(久保)

三位 井上 道孝(中浦)

四位 根来 昌則(西)

五位 梶谷幸三郎(湊浦)

敬称略

スポット



酒づくり46年の田中さん

母子保健事業

健康な子どもを生み、育てることは母子保健事業の目的です。母子の健康を守るために、保健センターでは各種の事業を行っています。こうした事業は生活の中心となる家庭に密着したものでなければいけません。効果を上げることはできません。

そこで、昭和四十三年から母子保健推進制度を発足。地道な活動が徐々に根を下ろしつつあります。

今年も四月十八日、母子保健推進員さんを委嘱しました。母子の健康問題や事業目標など、お近くの推進員さんに相談ください。次の三十一人のかたがたです。

協力

主な仕事

(一) 乳児検診など母子保健事業の該当者との連絡

(二) 乳児検診などの受け付け

(三) 推進員研修会に出席し資質の向上に努める

(四) 母と子の健康づくりのためのグループ活動への働きかけ

(五) そのほか保健事業への協力

敬称略

町見地区……大沢恵美子(奥) 山内廣香(向) 田村栄子(畑) 菊池つぎ子(須賀) 松田金栄(久保) 浜岡千代美(西) 岩井フミエ(二見) 西村蓉子(加周) 神山由佐江(田之浦) 上野トシ(古屋敷) 古田フサ子(大成) 竹上征美(鳥津)

健康の窓

健康の窓は、皆さんが開けなければなりません。保健センターでは、そのお手伝いをしたいと考えています。

伊方地区……矢野豊美・中藤喜和恵(大浜) 門田良子(中之浜) 宇都宮ヤス子(仁田之浜) 木戸睦子(河内) 松岡ツネミ・武田陽子(湊浦) 小林ハナ子(湊浦) 二和由美子(四電アパート) 二宮イセ子(小中浦) 西川サヨ子(中浦) 福田多代子(阿部浩子(川永田)) 登口フミ子(川永田) 二兵頭サチ子(伊方越) 前田久美子(亀浦) 井上トエ・井上ルイコ・井上ミ子(豊之浦)

人権コーナー

つわぶきの 花さく伊方に差別なし

古田友美さん(二見小四年)

古田さんの標語は、昨年度町人権擁護推進協議会が募集した標語部門で「町長賞」に選ばれたものです。

歳時記

五月晴れ

「五月晴れの空にコイのぼりが泳いで……」
5月5日、「こどもの日」の新聞などでよく見かける言葉です。5月の晴れた日だから五月晴れ——見、当たり前なのですが、これが実は本来の意味・用い方からすれば、ん？と首をかしげたくなる表現なのです。

五月晴れというのは、文字どおり5月の晴天には違いないのですが、言葉の由来からすると、あくまでも旧暦の5月であって、現在の暦では6月に当たります。

6月といえば梅雨。梅雨のことを五月雨(さみだれ)というのも旧暦からきており、しとしと降り続く五月雨、その合間の晴れた天気を五月晴れと言ったのです。かつて、五月晴れのことを「梅雨の中休み」というような言い方をしたのも、そうしたことからです。

しかし、最近では、五月雨のほうだけが梅雨の意味に使われ、五月晴れは、新暦5月の青空を指す言葉として用いられるようになりました。もっとも、広辞苑にも、五月晴れについて①さみだれの晴間②5月の空の晴れたこと、とありますから、もう言葉の変化は定着しているのでしょう。しかし、次のような声も聞かれます。「五月晴れを5月に使ってもかまいませんが、それならせめてサツキバラと古風に読まずに、ゴガツバラにしてしまったら、あきらめがつくのかなあ」とは、ある気象関係者のほやき。

ともあれ「晴れ」の定義は空を10等分し、空に広がる雲の量が20%以下が快晴、30から80%が晴れです。それ以上は曇りということになります。
理屈はともあれ、5月の晴れた日はさわやかです。

5月23日には、石川県で第34回全国植樹祭が行われます。また、各地でも緑の週間などさまざまな行事が繰り広げられます。晴れた日には戸外に出て緑に親しみたいものです。



さわやか君



おたくの裏山はだいじょうぶですか。六月一日から七日までの一週間は「がけ崩れ防災週間」です。
昭和五十七年の国や県の調査によりますと、がけ崩れ危険箇所は全国で七万二千カ所もあり、約百万戸が常時危険にさらされているという結果が出ています。昨年の長崎県を中心とした集中豪雨による山崩れ、がけ崩れなどの大災害は記憶に新しいところで

毎年このころ、梅雨期、がけ崩れを防ぐ方のおおよその目安は、がけの角度三十度以上、高さ五メートル以上とされています。本町などの上に平地が少なく傾斜地に家が密集しているところ、危険箇所はいたるところといわれます。
梅雨期の前に、家の回りの確認や排水路の整備などに努めましょう。

町では期間中、八幡警察署にお願いして町内巡回など

だいじょうぶですか裏山
六月一日からがけ崩れ防災週間
七月七日まで

困への苦情や要望
小中浦の渡辺さんへ

行政に関する苦情や要望があるがどこへ相談してよいかわからない。と思ったことはありませんか。こうした苦情や要望など解決のため、各市町村には国から委嘱された「行政相談員」さんがいます。
本町には、渡辺定孝さん(小中浦一〇〇二八)が相談員の委嘱を受けています。国が直接行う仕事や国鉄・公園などのように国から特別の監督

お知らせ
恩給
欠格者の会

本紙の三月号で、旧軍人軍属恩給欠格者全国連盟伊方支部(浅田敏会長)が結成されたことお知らせいたしました。
役員さんを通じ、該当するかたで加入されていないかたへの呼びかけを行って、いたが、いちはお五月末で締め切ることになりました。まだのかたはお急ぎください。

町内の交通事故

Table with 2 columns: Date (4月1日現在), Statistics (発生件数 19件, 負傷者数 3人). Includes text about road safety measures and accident prevention.

【おわび】
三月号五面、旧軍人軍属恩給欠格者の会結成記事で、理事の中に山口伊勢雄さん(旭)とあるのは井上登太郎さん(中浦)の誤り、旧軍人軍属で在籍した期間が一年以上とあるのは、一年以上の誤りです。
また、先月号一面、豊之浦小学校(菊池巧校長)となっていました。菊池真校長の誤りにつき、それぞれおわびして訂正させていただきます。

昭和58年4月1日現在
世帯数2,620戸(-3戸)
人口8,756人(男4,241人(-33人), 女4,515人(-38人))

えんむすび
昭和58年3月1日
13月31日
氏名 本籍

編集室
先月号のこと「AIR MAIL」といった手紙が届いた。
先大動があるが、横文字を免ただけで読み、開封してみると、アメリカのオレン州に住む伊方志雄さんという方から来た。
このかたは六十七歳で本籍は熊本にあり、生まれも育ちもアメリカ、アメリカの新聞で伊方の町名を見つけたので、先祖の名を調べて、先祖のルーツを確かめておいて、元々伊方という地名はなにか、伊方志雄さんの場合も同じで、なにかと確認するしかできないかと、それにしても、アメリカに伊方さんがいたとは――

お誕生おめでとう
お子に育ってください
昭和58年3月1日
13月31日
おくやみ
昭和58年3月1日
13月31日